
香川大学ダイバーシティ&インクルージョンに 関する全学調査vol.1 結果報告書

1. 調査概要

1-1. 調査目的

1-2. 調査方法

1-3. 調査対象

1-4. 調査期間

1-5. 調査項目

1-6. 回答率

2. アンケート結果

2-1. 回答者属性

2-1-1 学生

2-1-2 教職員

2-2. D&I関連施策・施設の認知度

2-3. D&Iに関する用語の理解度

2-4. D&Iに関する教育や研修の受講経験

2-5. D&Iに基づいた大学運営

3. おわりに

2022年8月

1. 調査概要

1-1. 調査目的

香川大学は、2021年10月に「D&I推進宣言」を行い、多様性を尊重し、誰もが活躍できるキャンパスの実現を目指している。本調査は、D&Iを推進していくために、全構成員（学生・教職員）を対象として、大学における課題を抽出し、今後の事業展開につなげることを目的として実施した。

1-2. 調査方法

Microsoft Formsを用いたオンライン調査

1-3. 調査対象

2022年6月1日時点で、在籍する学生及び教職員（非常勤教職員、再採用職員を含む）9,314名

1-4. 調査期間

2022年6月1日(水)～6月30日(木)

1-5. 調査項目

属性などの基本事項、D&I関連施策・施設の認知度、D&Iに関する用語の理解度、D&Iに関する教育や研修の受講経験、D&Iに基づいた大学運営など。この他、D&Iに関する自由記述欄（非公開）を設けた。

1-6. 回答率

2022年6月30日までの回答を有効回答として分析した。

学生1,882票／回答率29%、教職員1,059票／37%（詳細は、別紙1のとおり）

別紙1：回収状況

学生			
学年・課程別	現員	回収数	回収率
学部1年	1,280	707	55%
学部2年	1,304	447	34%
学部3年	1,300	319	25%
学部4年以上	1,780	257	14%
大学院修士課程・博士前期課程	436	94	22%
大学院博士課程・博士後期課程	207	25	12%
大学院専門職学位課程	114	26	23%
その他	—	7	
合計	6,421	1882	29%

※上記のうち、学部学生の所属別（大学院生、非正規生除く）

学部学生の所属別	現員	回収数	回収率
教育学部	698	188	27%
法学部	680	181	27%
経済学部	1,134	600	53%
医学部	1,043	424	41%
創造工学部（工学部）	1,478	230	16%
農学部	631	101	16%
その他／空白	—	6	
合計	5,664	1,730	31%

教職員			
職種別	員数	回収数	回収率
役職員（役員・副学長）	15	11	73%
教員	1,065	383	36%
職員	1,813	665	37%
合計	2,893	1,059	37%

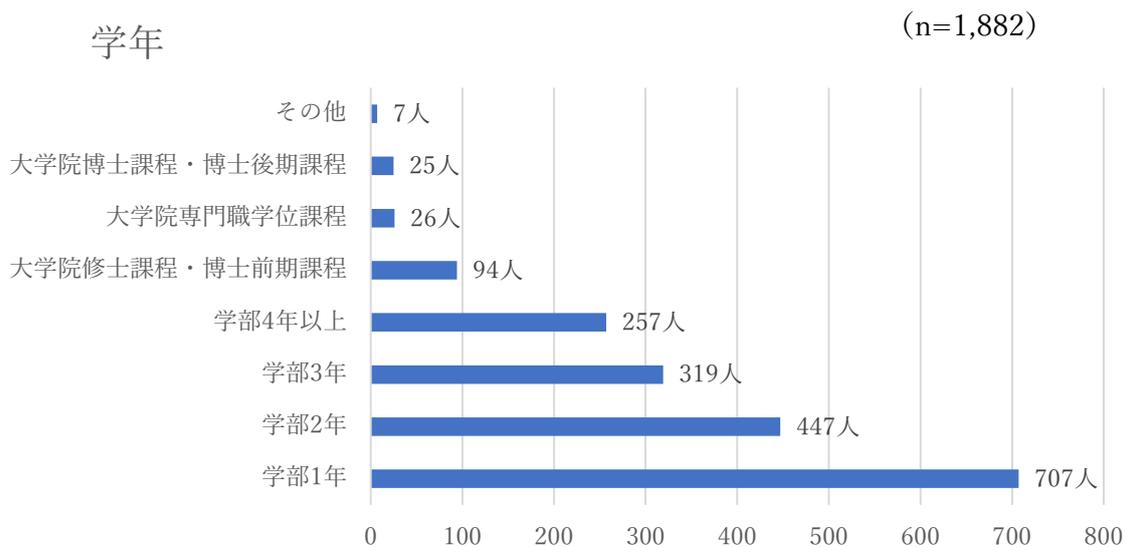
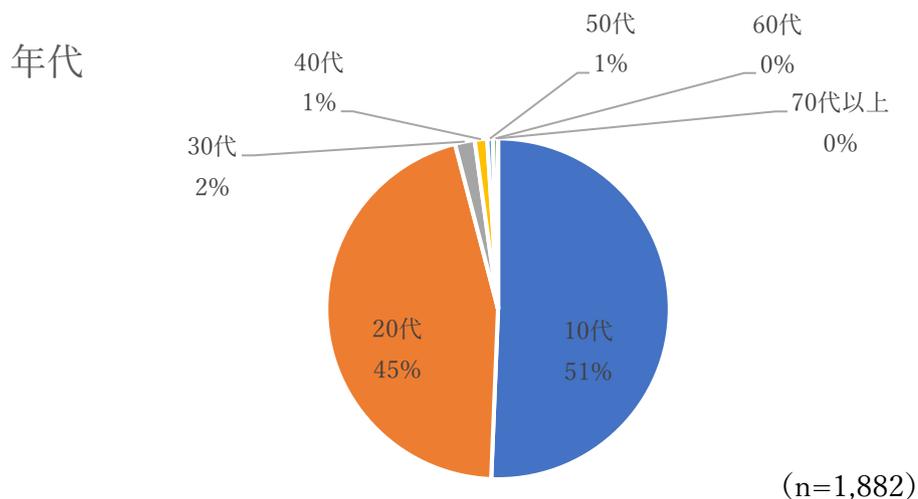
部局別	員数	回収数	回収率
教育学部	87	70	80%
附属学校	173	87	50%
法学部	28	16	57%
経済学部	51	34	67%
地域マネジメント研究科	17	11	65%
医学部・医学部附属病院	1,829	521	28%
創造工学部・林町地区統合事務センター	149	50	34%
農学部	114	63	55%
機構・センター等関係	121	29	24%
法人本部	273	145	53%
幸町地区統合事務センター	51	33	65%
合計	2,893	1,059	37%

2. アンケート結果

2-1. 回答者属性

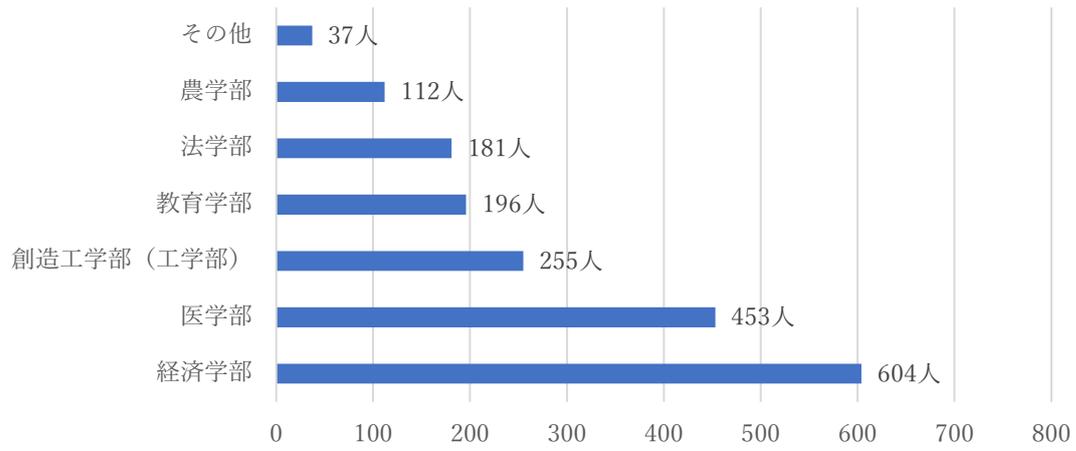
2-1-1 学生

学生は、年代では10代（51%）、学年では1年生（38%）が最も多く、学年が上がるにつれて回答者は減少している。また、所属学部では経済学部が回答者の33%と最も多く、次いで、医学部（24%）、創造工学部（14%）であった。性別は女性が55%、男性が41%、その他（どちらでもない）が、1%であった。



所属（学部生のみ）

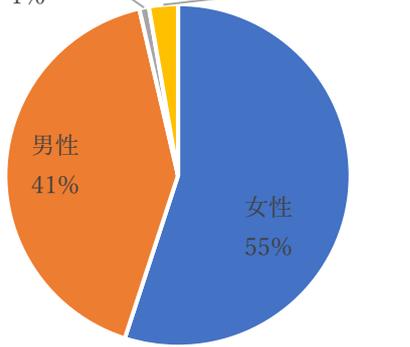
(n=1,838)



性別

その他（どちらでもない） 1%

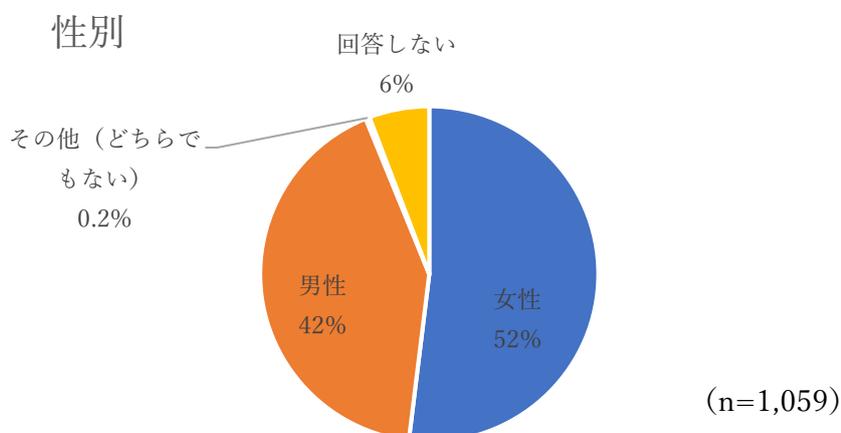
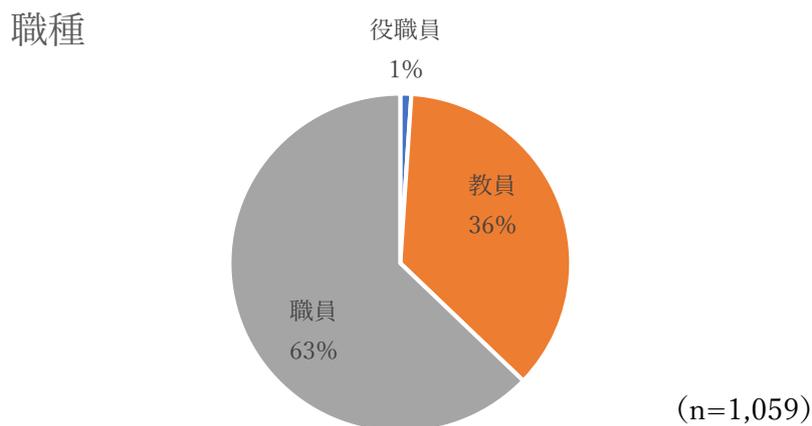
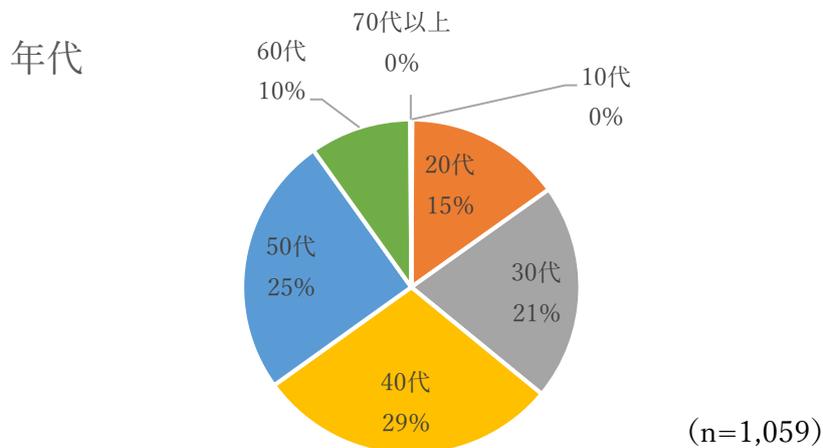
回答しない 3%



(n=1,882)

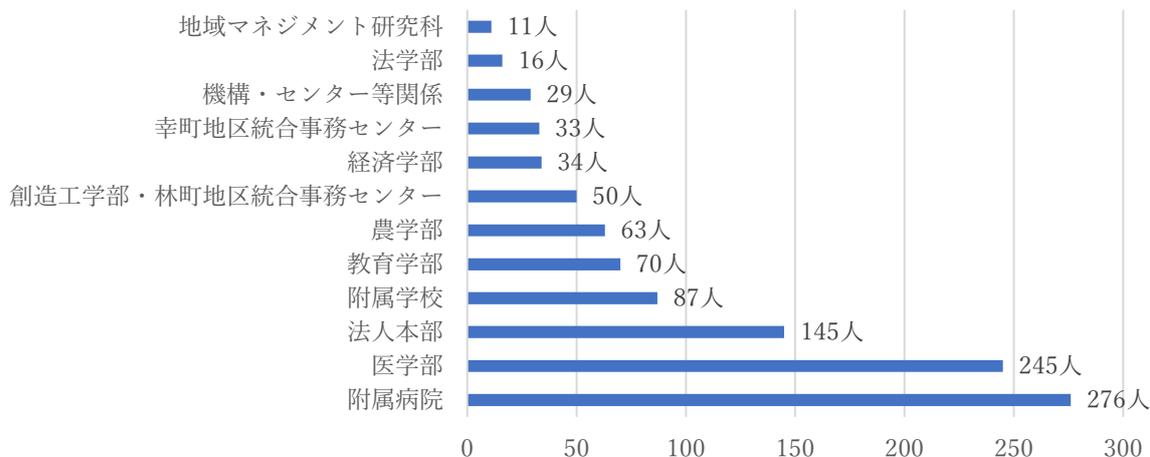
2-1-2 教職員

教職員の回答者のうち、役職員（学長・理事・副学長）は1%、教員は36%、職員は63%を占める。年代では、40代（29%）が最も多く、50代（25%）、30代（21%）と続いている。また、所属は、附属病院が回答者の26%と最も多く、医学部23%、法人本部14%と続いている。性別は女性が52%、男性が42%、その他（どちらでもない）が0.2%であった。



所属

(n=1,059)



2-2. D&I関連施策・施設の認知度

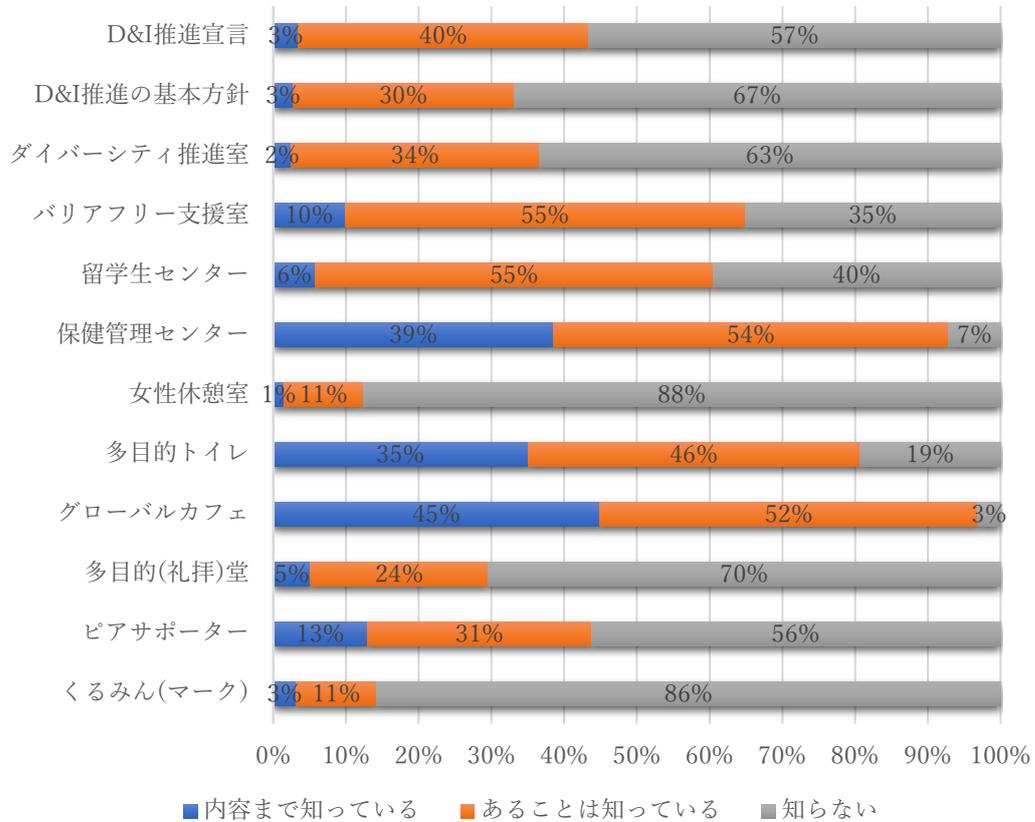
本学では、2021年10月に、D&I推進宣言を行い、D&I推進の基本方針を定め、本年4月には、ダイバーシティ推進室を設置し、D&I推進委員会と共に、D&Iに関する施策を実施している。

D&I関連施策・施設の認知度について「内容まで知っている」「あることは知っている」「知らない」の3択でたずねたところ、学生の認知度（「内容まで知っている」「あることは知っている」の合計）で最も高かったのが、グローバルカフェで、続いて保健管理センター、多目的トイレ、バリアフリー支援室、留学生センターとなった。一方、認知度の低いものとしては、女性休憩室、くるみん（マーク）などWLBIに関するものが占めており、ダイバーシティという用語を含むD&I推進宣言、基本方針、ダイバーシティ推進室の認知度は半数以下であった。

教職員の認知度では、多目的トイレが最も高く、保健管理センター、留学生センター、グローバルカフェ、バリアフリー支援室という状況である。ダイバーシティという用語を含むD&I推進宣言、基本方針については、3分の1以上が、ダイバーシティ推進室は半数以上が「知っている」と回答した。

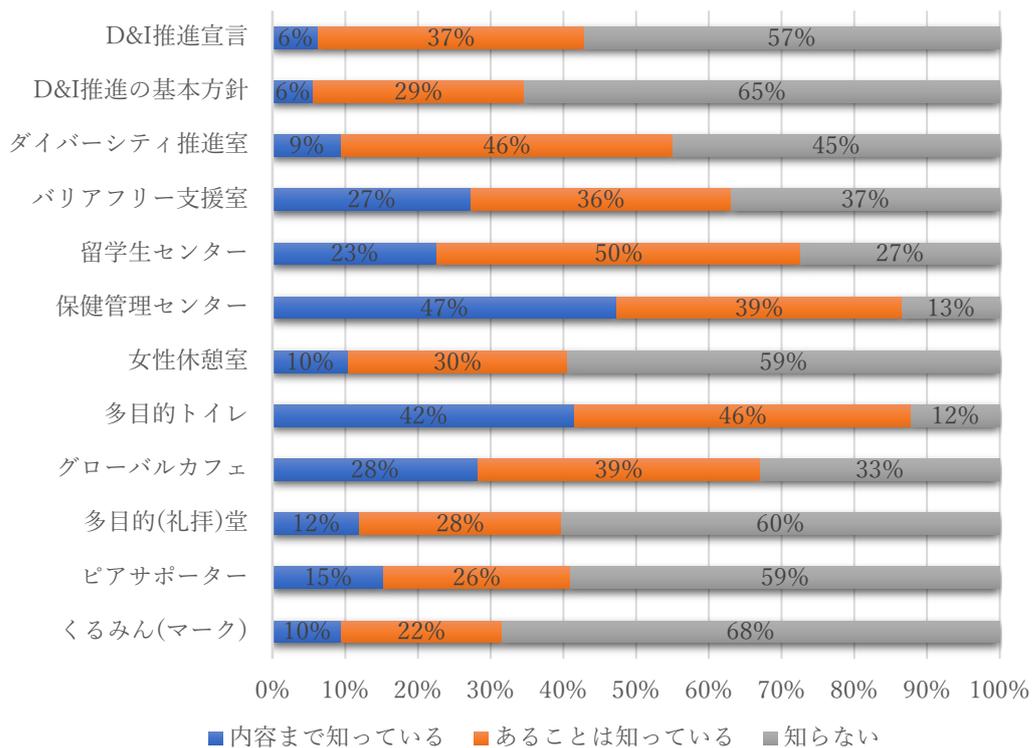
【学生】

【学内の施策・施設の認知度】 (n=1,882)



【教職員】

【学内の施策・施設の認知度】 (n=1,059)



2-3. D&I関連用語の認知度

D&I関連用語の認知度について、「用語の説明ができる」「聞いたことはあるが、説明できない」「聞いたことがない」の3択でたずねた。

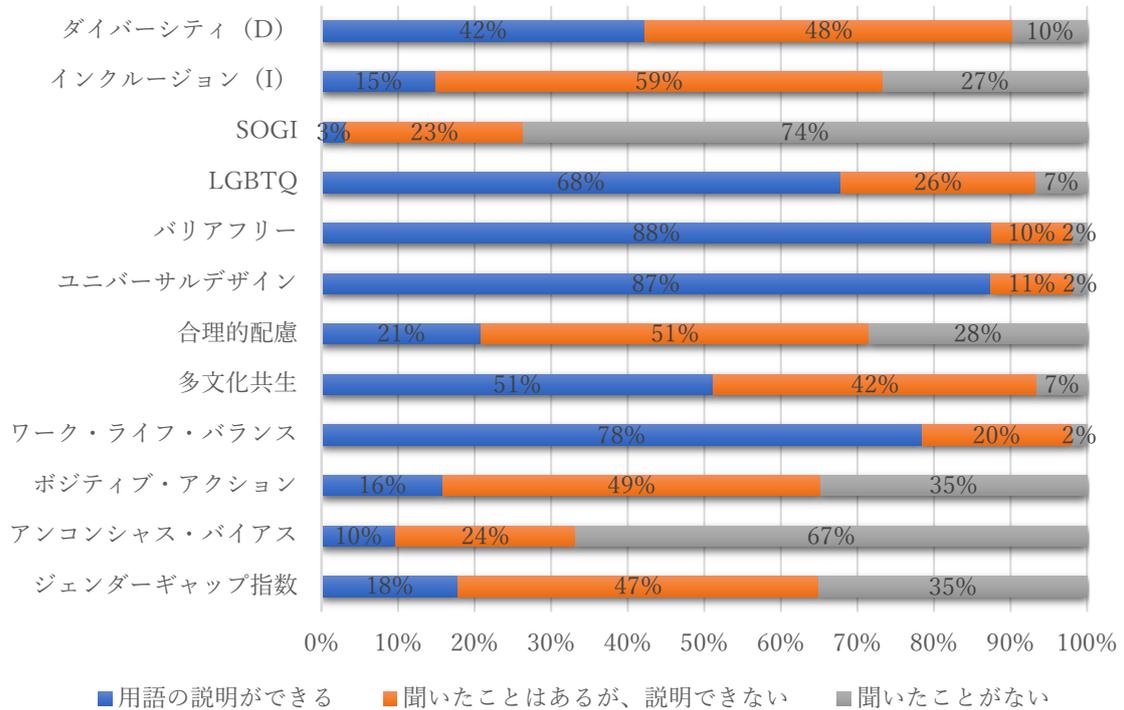
学生の認知度のうち、「用語の説明ができる」「聞いたことはあるが、説明できない」の合計が90%を超えているのは、ダイバーシティ、LGBTQ、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、多文化共生、WLBの6つである。中でも、バリアフリー、ユニバーサルデザインは「用語の説明ができる」との回答が9割近い。一方、認知度が低いのがSOGI、アンコンシャスバイアスで、「聞いたことがない」と約7割が回答している。

教職員については、「用語の説明ができる」「聞いたことはあるが、説明できない」の合計が90%を超えているのは、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、WLBの3つである。一方、認知度が低いのが、学生と同じく、SOGI（70%）、アンコンシャスバイアス（62%）で、「聞いたことがない」と回答している。

【学生】

【用語の説明】

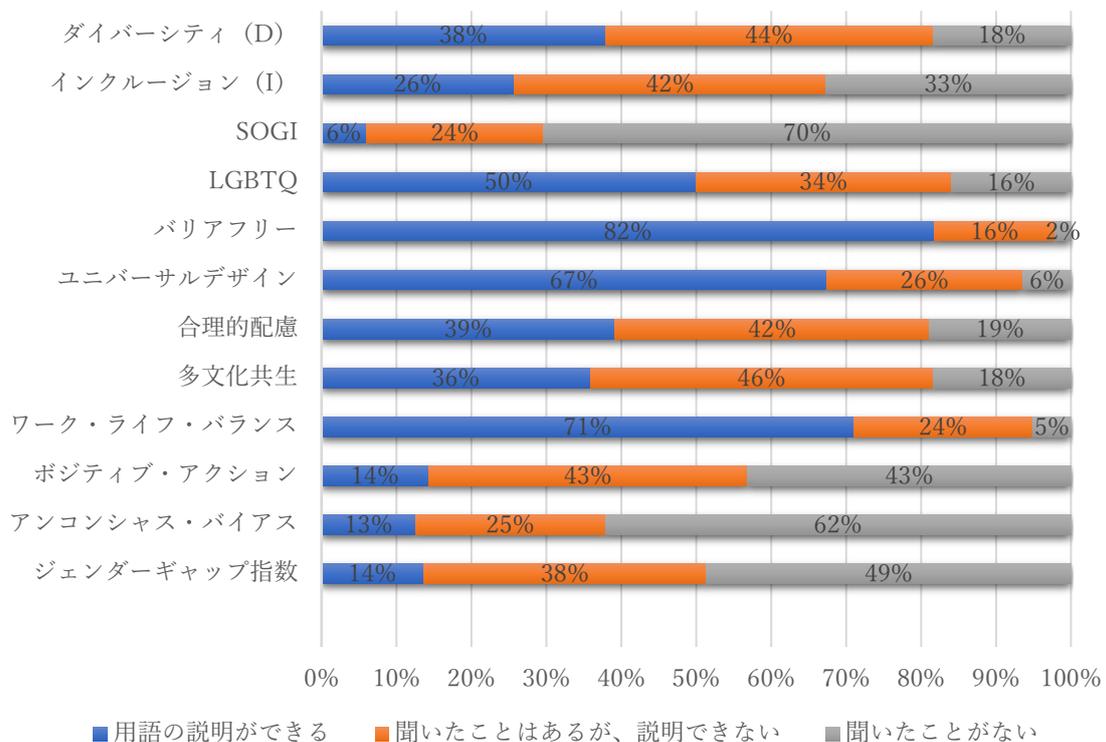
(n=1,882)



【教職員】

【用語の説明】

(n=1,059)



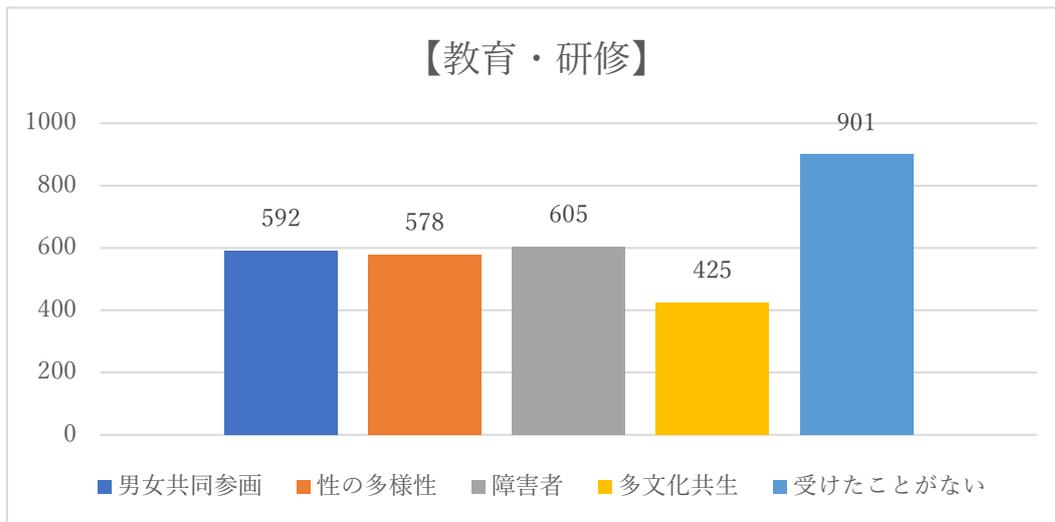
2-4. D&Iに関する教育や研修の受講経験

ダイバーシティ推進室では、本年4月よりD&I入門を全学共通科目で開講し、授業評価アンケートにおいても高評価を得ている。

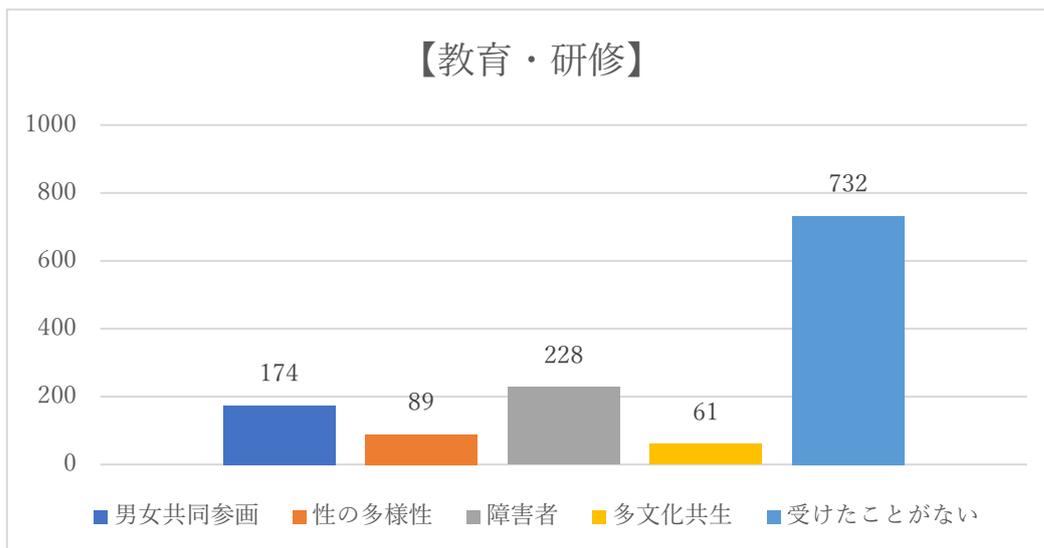
過去1年以内の学習経験について、「男女共同参画」「性の多様性」「障害者」「多文化共生」「受けたことがない」の項目を複数回答でたずねたが、「受けたことがない」との回答が、学生で901人（48%）、教職員で732人（69%）を占めた。

学生では、障害者（605人）、男女共同参画（592人）、性の多様性（578人）、多文化共生（425人）の受講経験があり、教職員では、障害者（228人）、男女共同参画（174人）、性の多様性（89人）、多文化共生（61人）の受講経験を回答した。

【学生】



【教職員】



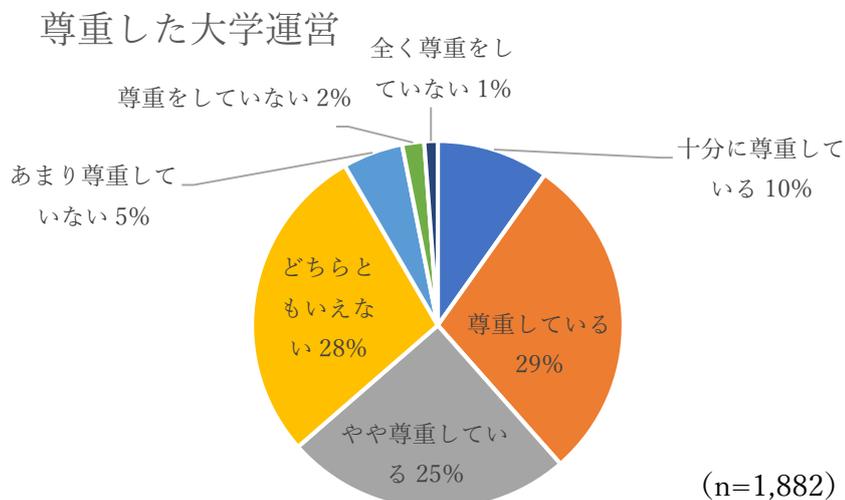
2-5. D&Iに基づいた大学運営

「香川大学は、構成員（学生・教職員）の多様な構成や価値観、考え方を尊重した運営をしていると考えているか」という設問に対し、「十分に尊重している：1点」から「全く尊重していない：7点」の7段階でたずねた。

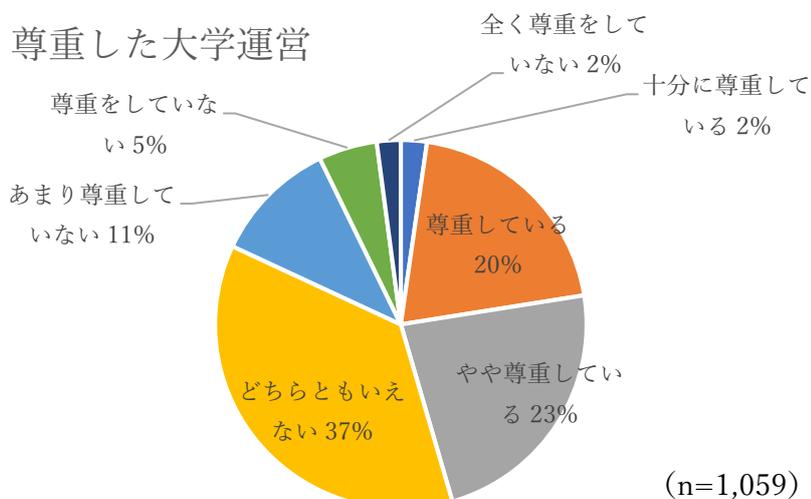
学生の平均は、3.01点で、「十分に尊重している」（10%）、「尊重している」（29%）、「やや尊重している」（25%）と回答した。一方、「あまり尊重していない」、「尊重をしていない」、「全く尊重していない」の合計は、8%だった。

教職員の平均は、3.57点で、「十分に尊重している」（2%）、「尊重している」（20%）、「やや尊重している」（23%）と回答した。一方、「あまり尊重していない」、「尊重をしていない」、「全く尊重していない」の合計は、18%だった。学生に比べ教職員の方が、「尊重している（十分尊重～やや尊重）」と回答する割合が低いことがわかる。

【学生】



【教職員】



3. おわりに

今回の調査結果から、本学のD&I推進の課題が浮かび上がってきた。

学内のD&I関連施策・施設の認知度については、当室をはじめ、大学の宣言や基本方針の認知度が低いと、ダイバーシティ推進室のHP等を通じて広報活動を充実させていく必要がある。また、D&I関連用語の認知度を上げるために、学生にはD&I関連科目の拡充、教職員には受講しやすい研修、セミナー開催などを通じて、理解を深めていく必要がある。

なお、上記の選択式設問の他、「香川大学で学びにくい、働きにくいなど感じたこと、または見聞きしたこと」、「左記の回答を解決するために、どんな支援や施策があればよいかについての意見」を自由記述欄として設け、さまざまな具体的な意見、要望といった回答を得た。自由記述は公表しないが、今後のD&I推進の事業展開につなげ、課題解決に取り組んでいく予定である。

アンケート結果を受けて、LGBTQ の用語認知度が高いことは明らかになったが、本学のLGBTQに関する対応が整備されていないことから、まず、性の多様性に関するガイドラインの策定に取り組むこととした。また、自由記述欄でさまざまな回答を得たことから、直接対話をする必要性を感じ、D&I フェスタの中でのトークやパネルディスカッションを通じて、D&I 推進施策に反映していくことを考えている。